

2 自転車の安全性向上に対する実態・意識

(1) 自転車利用者の安全利用に向けた取組

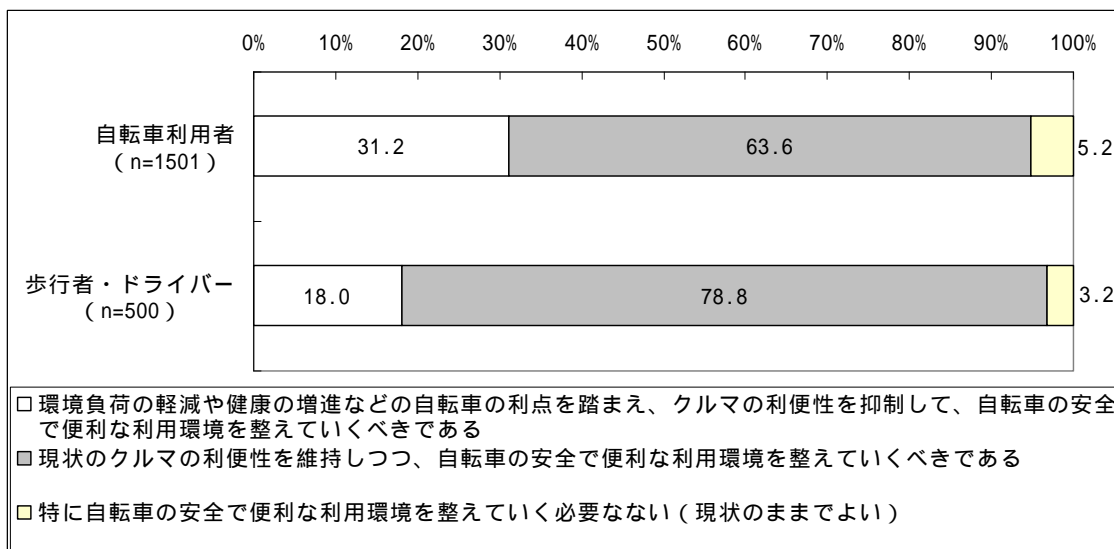
自転車を安全利用できる環境づくり

問3.あなたは、自転車を安全に利用できる環境をどのような方向性で促進していくべきだと思いますか。
次の中から最もよくあてはまるものを1つを選んでご回答ください。(1つ選択)

自転車利用者回答者においては、自転車を安全利用できる環境促進は、現状のクルマの利便性を維持しつつ、自転車の安全で便利な利用環境を整えていくべきである(63.6%)が最も多く、次いで環境負荷の軽減や健康の増進などの自転車の利点を踏まえ、クルマの利便性を抑制して、自転車の安全で便利な利用環境を整えていくべきである(31.2%)、特に自転車の安全で便利な利用環境を整えていく必要はない(現状のままでよい)(5.2%)の順となっている。

歩行者・クルマ利用者回答者においては、自転車を安全利用できる環境の促進について、現状のクルマの利便性を維持しつつ、自転車の安全で便利な利用環境を整えていくべきである(78.8%)が最も多く、次いで環境負荷の軽減や健康の増進などの自転車の利点を踏まえ、クルマの利便性を抑制して、自転車の安全で便利な利用環境を整えていくべきである(18%)、特に自転車の安全で便利な利用環境を整えていく必要はない(現状のままでよい)(3.2%)の順となっている。

図表 II-18 自転車の安全利用できる環境づくり(単一回答、回答数1,501)

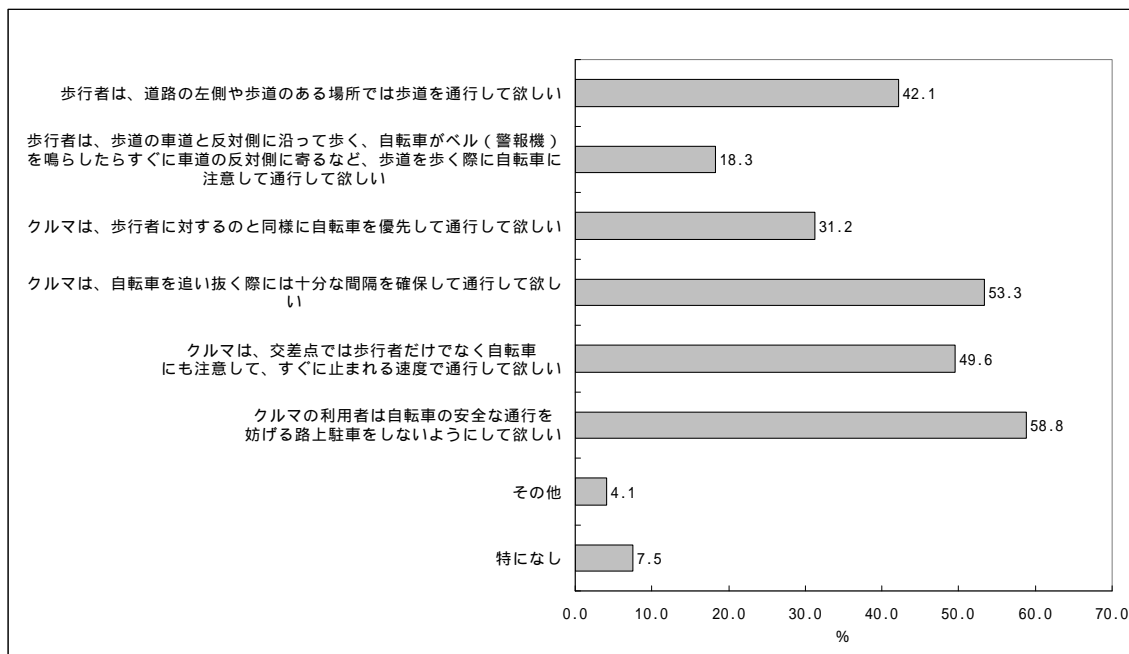


歩行者やクルマ利用者の行動の改善

問4.あなたは、自転車を安全に利用するために、歩行者やクルマ利用者の行動を改善してほしいと考えていることがありますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでご回答ください。（複数選択可）

歩行者やクルマ利用者の行動の改善は、クルマの利用者は自転車の安全な通行を妨げる路上駐車をしないようにしてほしい（58.8 %）が最も多く、次いでクルマは、自転車を追い抜く際には十分な間隔を確保して通行してほしい（53.3 %）、クルマは、交差点では歩行者だけでなく自転車にも注意して、すぐに止まれる速度で通行してほしい（49.6 %）、歩行者は、道路の左側や歩道のある場所では歩道を通行してほしい（42.1 %）の順となっている。

図表 II-19 歩行者やクルマ利用者の行動の改善（複数回答、回答数1,501）



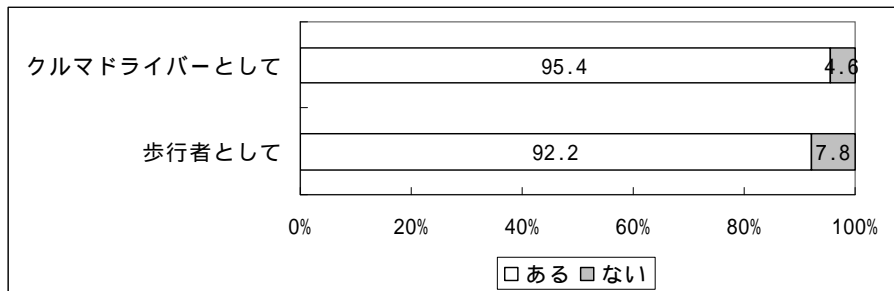
一方、歩行者・クルマ利用者調査の結果によれば、回答者の 92.2%が道路を歩いていて、自転車が迷惑である、または危険であると感じたことがあり、回答者の 95.4%がクルマを運転していて、自転車が迷惑である、または危険であると感じたことがある。

クルマ運転中の自転車に対する印象は、自転車が車道の左側に十分に寄っておらず、追い抜く際に間隔をとりづらかった(73.8%)が最も多く、次いで自転車が無灯火で運転しており、近くに来るまで分からなかった(50.5%)、自転車が信号を守らずに交差点に進入してきた(50.1%)、自転車が2人乗りや傘差し、携帯電話の使用など不適切な乗り方をしており、追い抜く際に不安を感じた(49.5%)の順となっている。

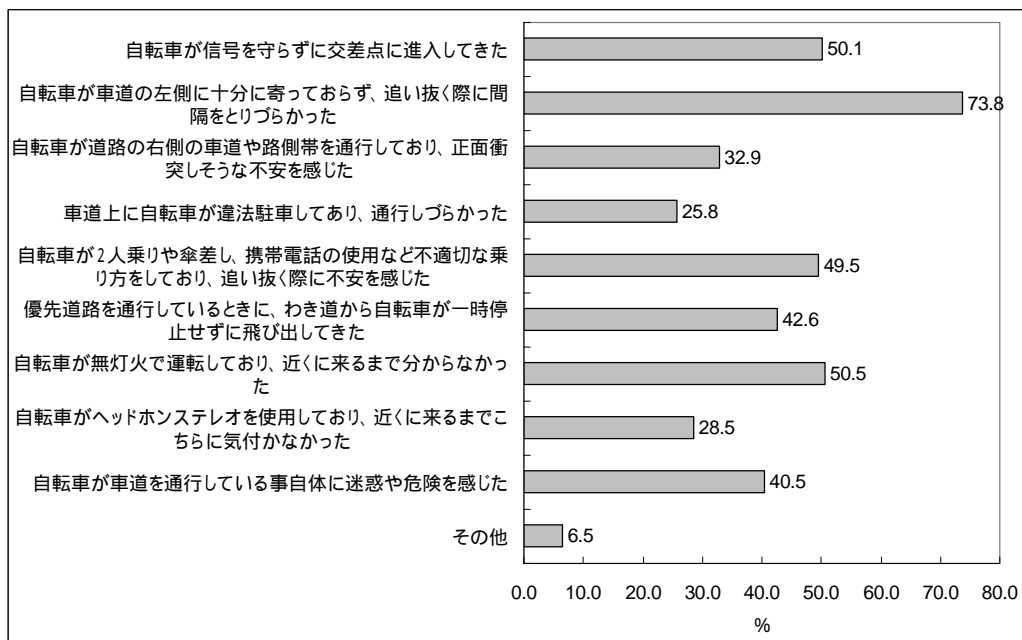
歩行中の自転車に対する印象は、歩道を歩いている際にすぐそばを通り過ぎていった

(65.9%)が最も多く、次いで歩道を歩いている際に危険な速度で通り過ぎていった(59.7%)、自転車が無灯火で運転しており、近くに来るまで分からなかった(49.5%)、自転車が2人乗りや傘差し、携帯電話の使用など不適切な乗り方をしており、通り過ぎる際に不安を感じた(47.5%)の順となっている。

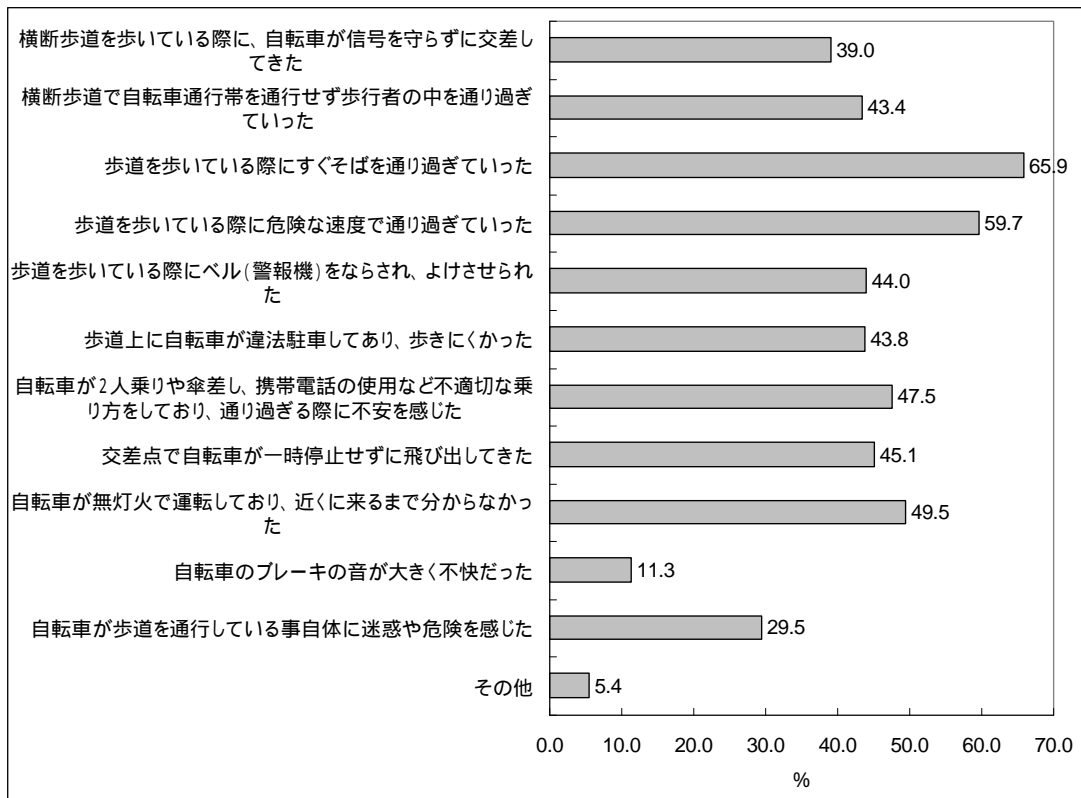
図表 11-20 クルマ利用者や歩行者として自転車を迷惑・危険と感じた経験(複数回答、回答数500)



図表 11-21 クルマ利用者として自転車を迷惑・危険と感じた内容(複数回答、回答数477)



図表 11-22 歩行者として自転車を迷惑・危険と感じた内容（複数回答、回答数461）



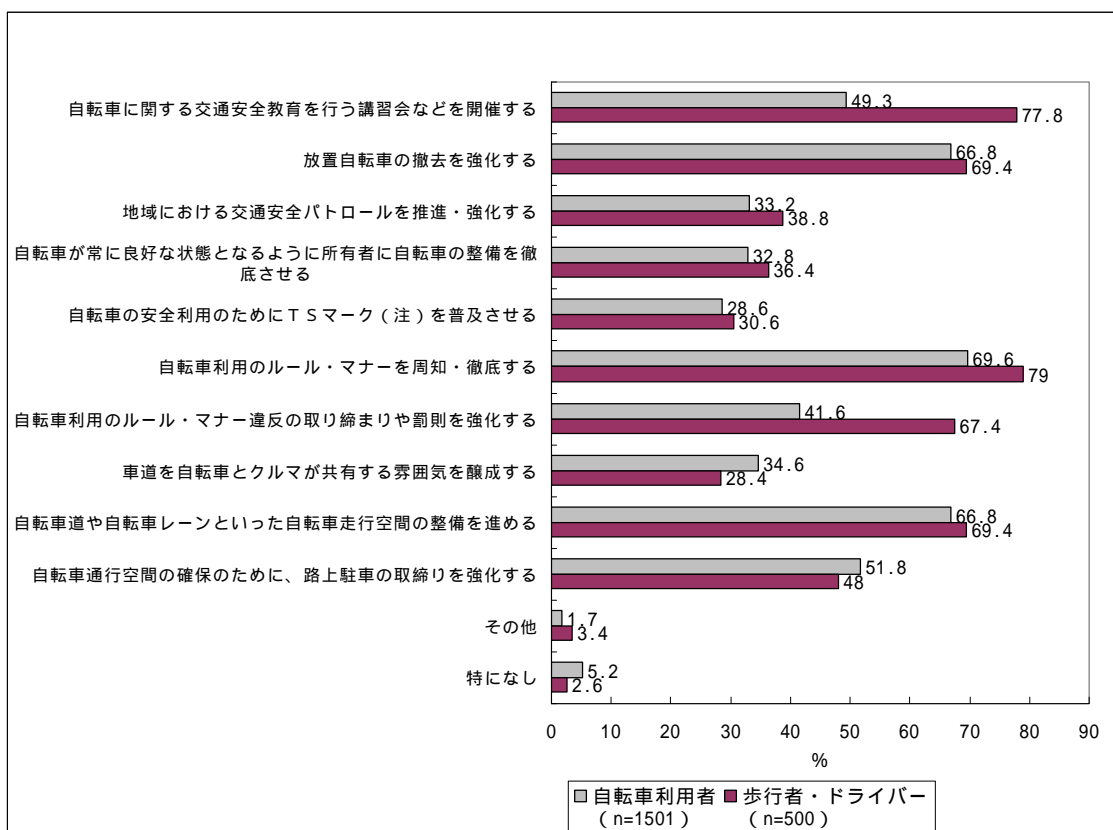
自転車の安全利用対策

問5.あなたは、自転車を安全に利用するためにどのような対策が必要だと思いますか。
 また、それらのうちで、あなたがその対策に参加したり、協力しても良いと思うものはありますか。
 次の中からそれぞれあてはまるものをすべて選んでご回答ください。
 (それぞれ複数選択可)

自転車の安全利用対策について必要だと思うものは、自転車利用のルール・マナーを周知・徹底する(69.6%)が最も多く、次いで放置自転車の撤去を強化する、自転車道や自転車レーンといった自転車走行空間の整備を進める(66.8%)、自転車通行空間の確保のために、路上駐車取締りを強化する(51.8%)の順となっている。

歩行者・クルマ利用者回答者と比較すると、自転車に関する交通安全教育を行う講習会などを開催する、自転車利用のルール・マナーを周知・徹底するの項目において特に割合が高い。

図表 11-23 自転車の安全利用対策 必要だと思うもの(複数回答)

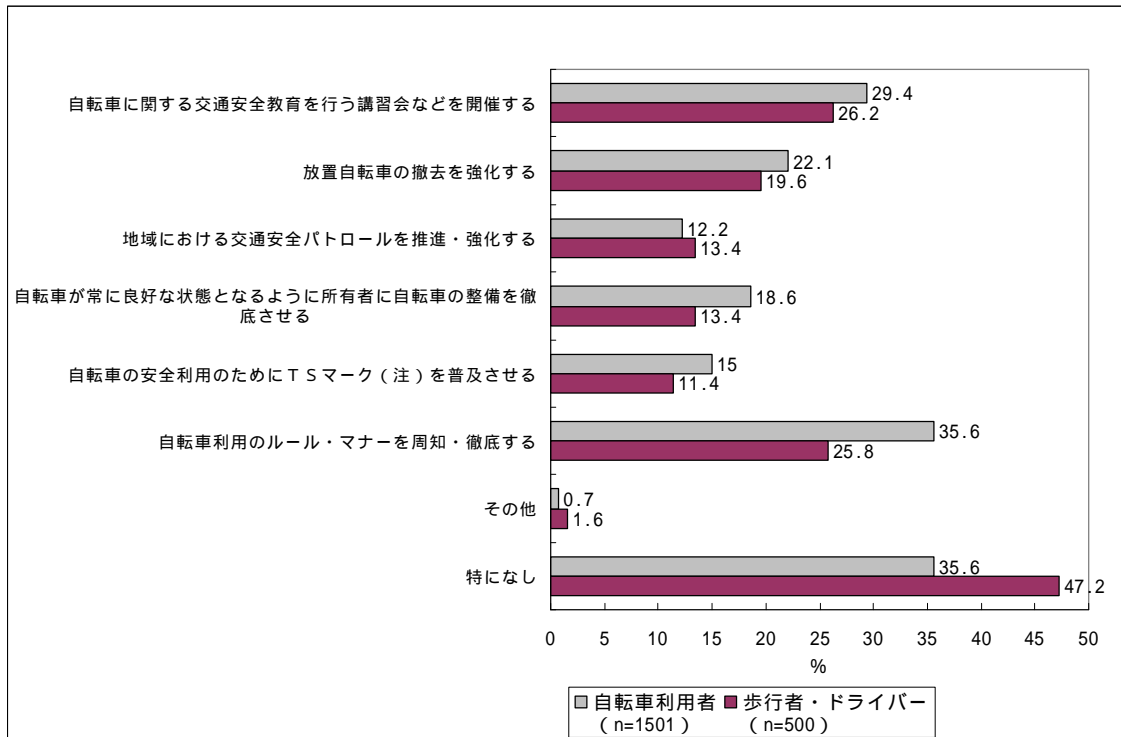


自転車の安全利用対策について、参加、協力してもよいと思うものは、自転車利用のルール・マナーを周知・徹底する、特になし(35.6%)が最も多く、次いで自転車に関する交通安全教育を行う講習会などを開催する(29.4%)、放置自転車の撤去を強化する(22.1%)の

順となっている。

歩行者・クルマ利用者回答者と比較すると、いずれの項目に置いても大きな差異はみられず、自転車利用者の回答割合よりも低くなっている。

図表 11-24 自転車の安全利用対策 参加、協力してもよいと思うもの（複数回答）



(2) 自転車利用のルール・マナーに係る実態と交通安全教育

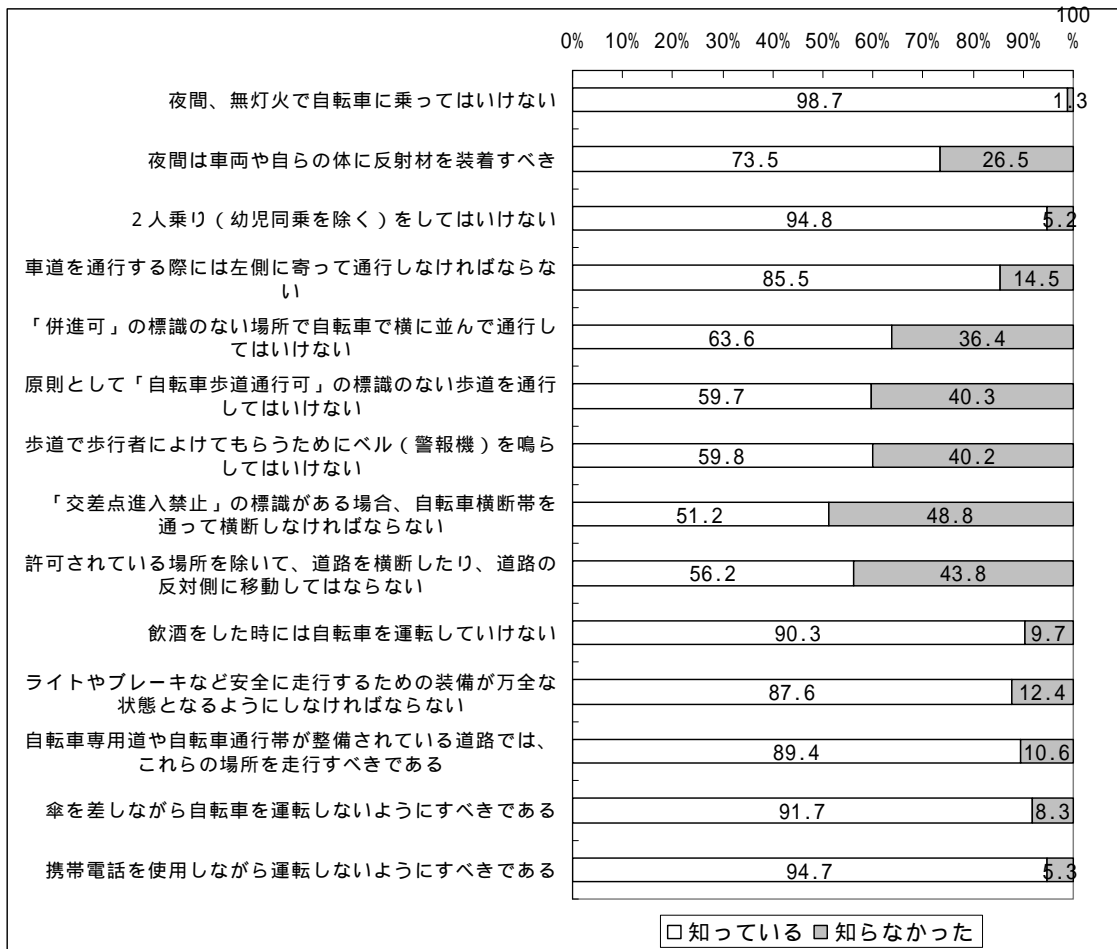
自転車利用のルール・マナー

問6. 自転車を利用する際のルールやマナーとして、以下のようなことがあります。
 1、ルール・マナーを知っていたか
 2、ルール・マナーを守らないことがあるか
 について、項目ごとにそれぞれ最も良くあてはまるものを一つ選んでご回答ください
 (それぞれ1つずつ選択)

1) 認知状況

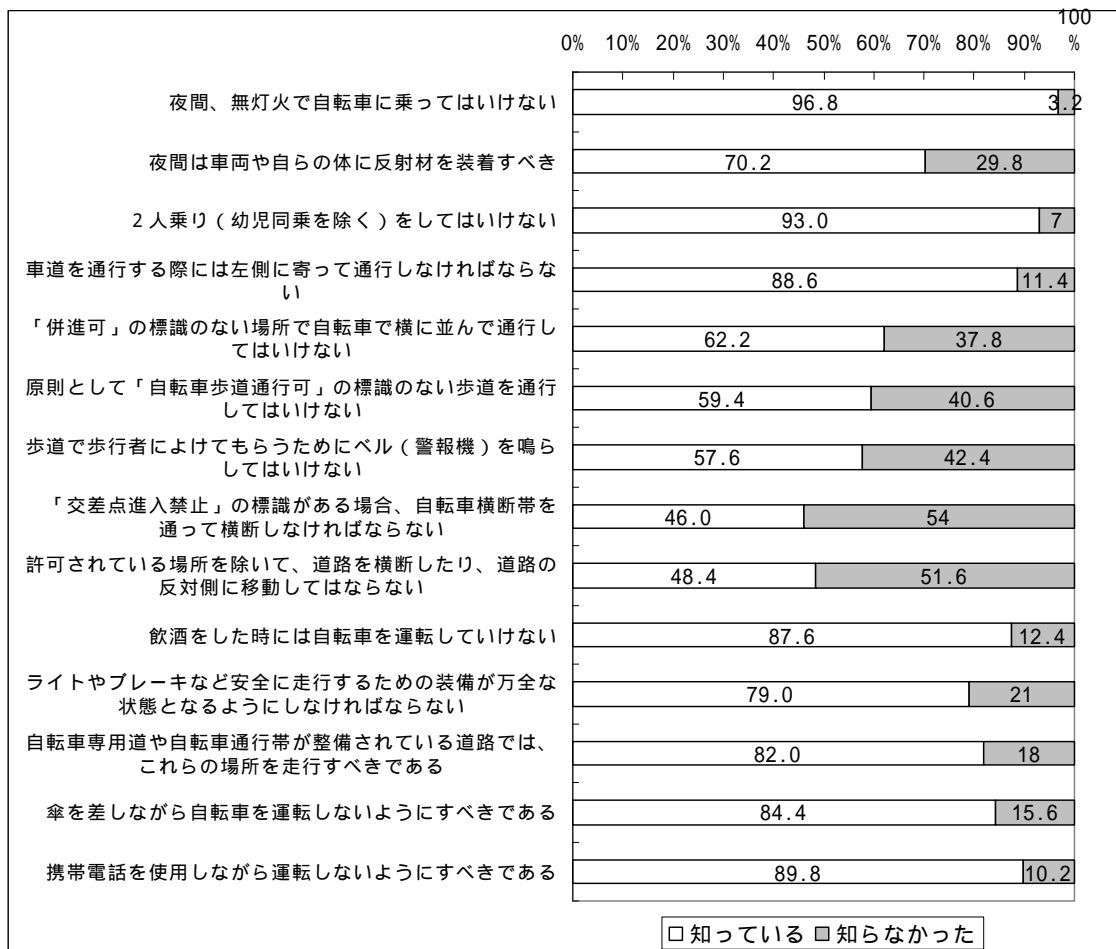
自転車利用のルール・マナーに関する認知度(自転車利用者)として、低い項目は「交差点進入禁止」の標識がある場合、自転車横断帯を通過して横断しなければならない(認知51.2%)、許可されている場所を除いて、道路を横断したり、道路の反対側に移動してはならない(同56.2%)原則として「自転車歩道通行可」の標識のない歩道を通行してはならない(同59.7%)歩道で歩行者によけてもらうためにベル(警報機)をならしてはいけない(同59.8%)の順となっている。

図表 11-25 自転車利用のルール・マナー(自転車利用者、単数回答、回答数1,501)



自転車利用のルール・マナーに関する認知度（歩行者・クルマ利用者）として、低い項目は概ね自転車利用者と同様であり、「交差点進入禁止」の標識がある場合、自転車横断帯を通過して横断しなければならない（認知 46.0%）、許可されている場所を除いて、道路を横断したり、道路の反対側に移動してはならない（同 48.4%）、歩道で歩行者によけてもらうためにベル（警報機）をならしてはいけない（同 57.6%）、原則として「自転車歩道通行可」の標識のない歩道を通行してはならない（同 59.4%）、の順となっている。

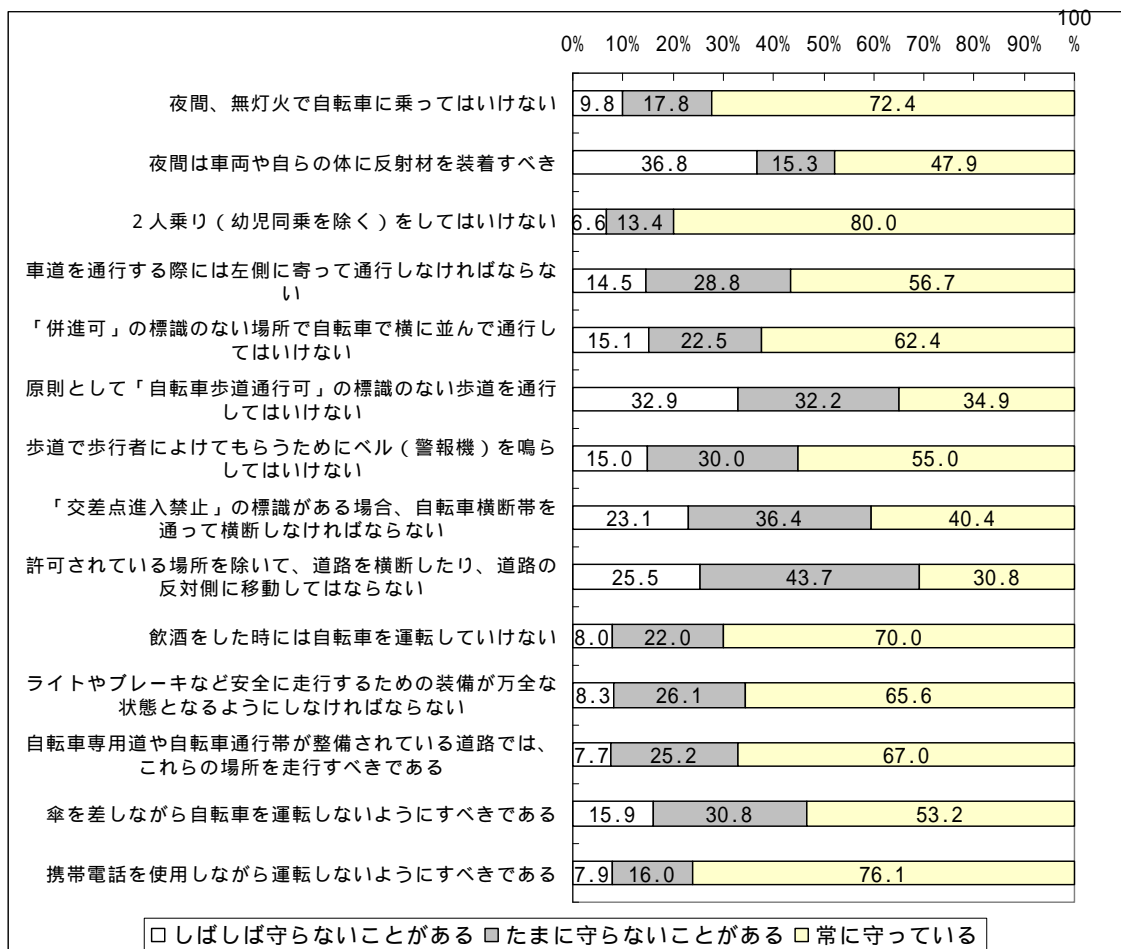
図表 11-26 自転車利用のルール・マナー（歩行者・クルマ利用者、単数回答、回答数500）



2) 遵守状況

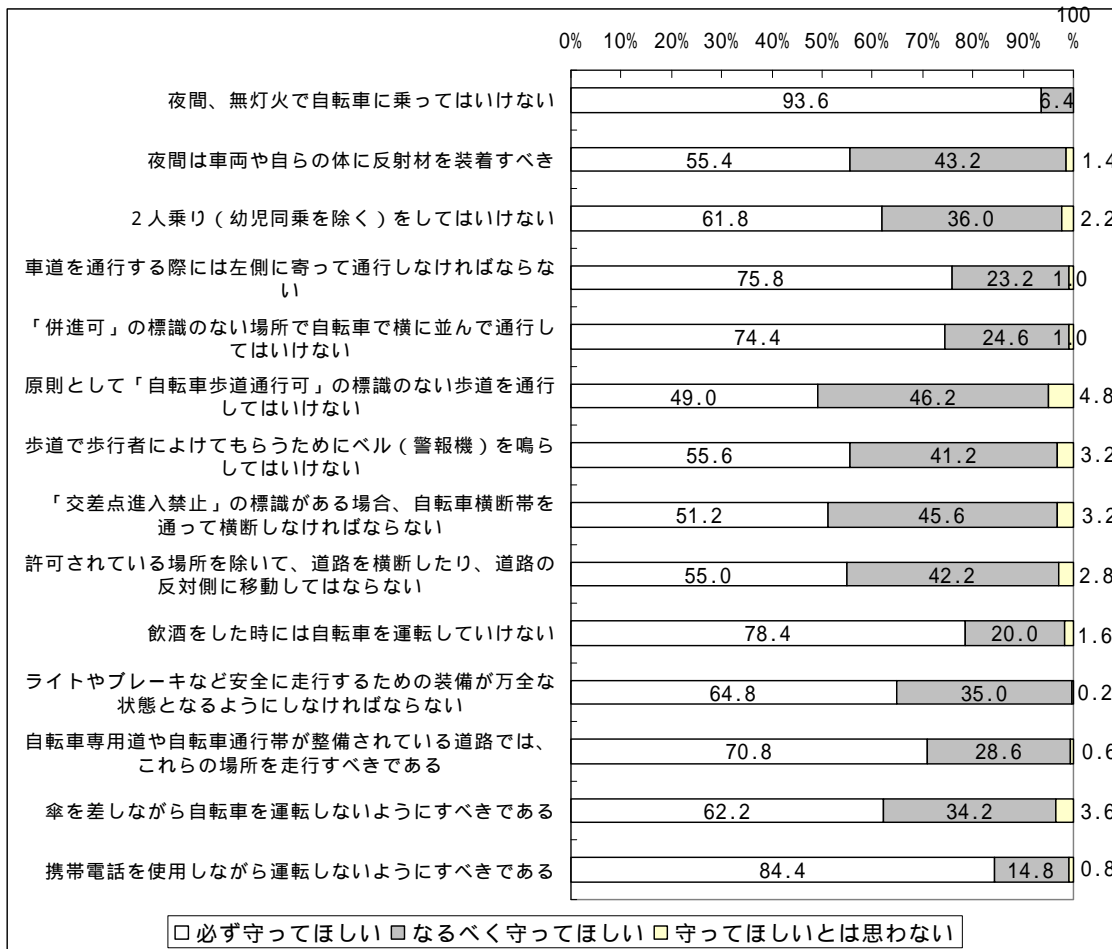
自転車利用のルール・マナーに関する遵守度（自転車利用者）として、しばしば守らないことがある割合の高い項目は、夜間は車両や自らの体に反射材を装着すべき（36.8%）、原則として「自転車歩道通行可」の標識のない歩道を通行してはならない（32.9%）、許可されている場所を除いて、道路を横断したり、道路の反対側に移動してはならない（同 25.5%）の順となっている。

図表 11-27 自転車利用のルール・マナー遵守（自転車利用者、単数回答、回答数1501）



歩行者・クルマ利用者が自転車利用に遵守してほしいルール・マナーとして、割合が高い項目は、夜間、無灯火で自転車に乗ってはいけない(93.6%)が突出して高く、次いで携帯電話を使用しながら運転しないようにすべきである(84.4%)、飲酒をした時は自転車を運転してはいけない(78.4%)、車道を通行する際には左側に寄って通行しなければならない(75.8%)の順となっている。

図表 11-28 自転車利用のルール・マナー遵守期待(歩行者・クルマ利用者、単数回答、回答数500)



3) 自転車利用者のルール・マナーの遵守傾向の分析

歩行者・クルマ利用者が自転車利用に遵守してほしいルール・マナーとして、最も割合が高かった「夜間、無灯火で自転車に乗ってはいけない(93.6%)」について、自転車利用者の属性別の順守状況を詳細に分析する。

vii. 地域ブロック別

地域ブロック別にみると、近畿地方において、しばしば守らないことがあるの割合が他地域の2倍程度の割合となっている。

図表 11-29 夜間の灯火の遵守状況(自転車通行場所別、単数回答、回答数1501)

上段:度数 下段:%		合計	いし こば とし がば あ守 るら な	こた とま がに あ守 るら ない	常 に 守 っ て い る
合計		1501 100.0	147 9.8	267 17.8	1087 72.4
地 域 ブ ロ ッ ク	北海道・東北	213 100.0	13 6.1	32 15.0	168 78.9
	首都圏	502 100.0	46 9.2	94 18.7	362 72.1
	北陸・中部	236 100.0	16 6.8	32 13.6	188 79.7
	近畿	243 100.0	47 19.3	58 23.9	138 56.8
	中四国	88 100.0	8 9.1	11 12.5	69 78.4
	九州・沖縄	219 100.0	17 7.8	40 18.3	162 74.0

viii. 自動車運転免許の有無別

自動車運転免許の有無別にみると、免許を持っている回答者の方がわずかに順守状況が良好な傾向がある。

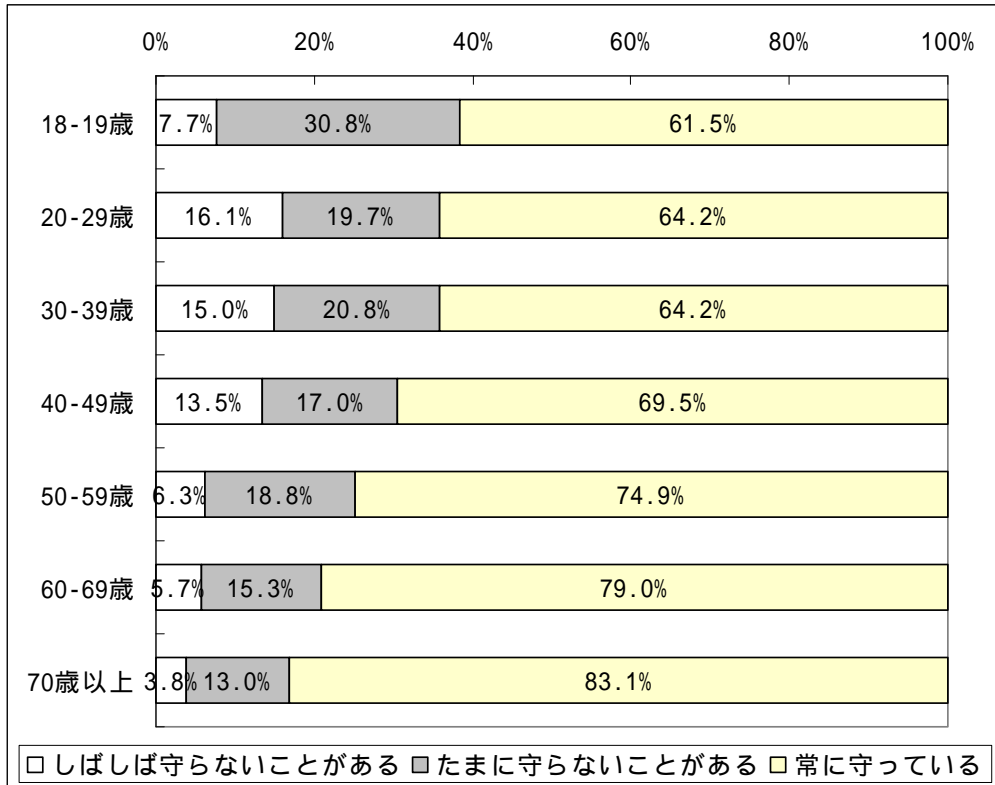
図表 11-30 夜間の灯火の遵守状況(自動車運転免許の有無別、単数回答、回答数1501)

上段:度数 下段:%		合計	いし こば とし がば あ守 るら な	こた とま がに あ守 るら ない	常 に 守 っ て い る
合計		1501 100.0	147 9.8	267 17.8	1087 72.4
の 有 免 無 許	持っている	1247 100.0	128 10.3	215 17.2	904 72.5
	持っていない	254 100.0	19 7.5	52 20.5	183 72.0

ix. 年齢階層別

年齢階層別にみると、20-29歳の回答者において最も順守状況がおもわしくなく、年齢階層があがるにつれ、順守状況が良好になっていく傾向がある。

図表 11-31 夜間の灯火の遵守状況（年齢階層別、単数回答、回答数1501）



x. 自転車通行場所

通常自転車で通行している場所として、車道、歩道のいずれにおいてもどの部分を通行するか特に気にしていない回答者は、他の回答者に比べ、しばしば守らないことがあるの割合が高い傾向にある。

図表 11-32 夜間の灯火の遵守状況（自転車通行場所別、単数回答、回答数1501）

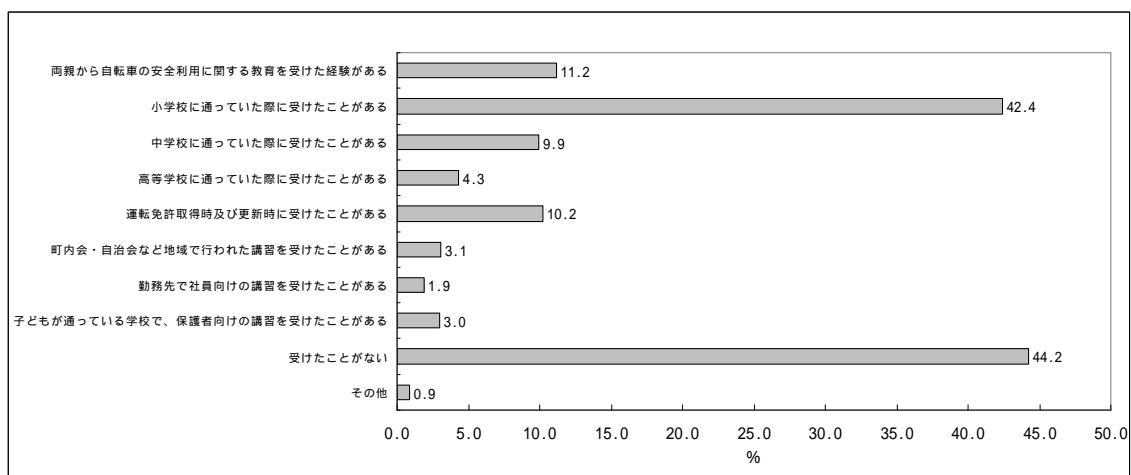
上段:度数 下段:%		合計	い し こ と が あ る な	こ と ま が あ る な い	常 に 守 っ て い る
合計		1501 100.0	147 9.8	267 17.8	1087 72.4
通 行 の 項 目	(車道)車道のどの部分を通行するか、特に気にしていない	41 100.0	8 19.5	9 22.0	24 58.5
	(車道)車道の進行方向に向かって左寄りの部分(クルマと同じ向き)を通行することが多い	346 100.0	30 8.7	56 16.2	260 75.1
	(車道)車道の真ん中の部分を通行することが多い	- -	- -	- -	- -
	(車道)車道の進行方向に向かって右寄りの部分(クルマと逆の向き)を通行することが多い	20 100.0	2 10.0	7 35.0	11 55.0
	(車道)わからない	5 100.0	3 60.0	- -	2 40.0
	(歩道)歩道のどの部分を通行するか、特に気にしていない	331 100.0	51 15.4	69 20.8	211 63.7
	(歩道)車道寄りを通行することが多い	424 100.0	29 6.8	74 17.5	321 75.7
	(歩道)真ん中辺りを通行することが多い	109 100.0	9 8.3	18 16.5	82 75.2
	(歩道)車道寄りでない方(建物側等)を通行することが多い	169 100.0	14 8.3	23 13.6	132 78.1
	(歩道)わからない	56 100.0	1 1.8	11 19.6	44 78.6

自転車安全利用に関する交通安全教育経験

問7.あなたは、自転車の安全利用に関する交通安全教育を受けた経験がありますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでご回答ください。（複数選択可）

自転車安全利用に関する交通安全教育は、受けたことがない（44.2 %）が最も多く、次いで小学校に通っていた際に受けたことがある（42.4 %）、両親から自転車の安全利用に関する教育を受けた経験がある（11.2 %）、運転免許取得時及び更新時に受けたことがある（10.2 %）の順となっている。

図表 11-33 自転車安全利用に関する交通安全教育（自転車利用者、複数回答、回答数1,501）



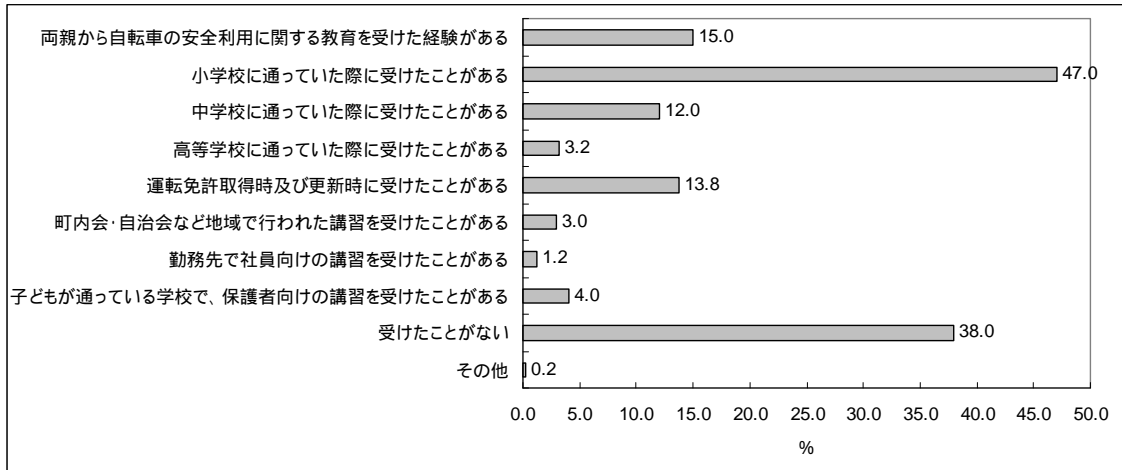
自転車安全利用に関する交通安全教育経験を年齢階層別にみると、小学校での教育、両親からの教育、中学校での教育など、現在主要な教育経験となっている機会において、いずれも年齢階層が低いほど経験割合が高くなっている。（ただし、年齢階層が高い層は経験がないのか、あるいは記憶の中に残っていないのかは要留意事項である。）

図表 11-34 自転車安全利用に関する交通安全教育（年齢階層別、複数回答、回答数1,501）

	を全両 受利親 け用か たにら 経関自 験す転 がる車 あ教の る育安	る際小 に学 受校 けに た通 こつ とて が あ	る際中 に学 受校 けに た通 こつ とて が あ	あ た 高 等 に 学 校 に 通 つ と て が い	が更 新 時 に 許 受 取 得 時 と び	を地 域 内 で 会 行 わ れ た 講 習	町 会 自 治 会 な ど	あ 講 習 を 先 受 け 社 員 の 向 け の	が の 講 習 を 受 け た 者 の 向 け の	子 ど も が 通 つ て い る 学 校 で の 保 護 者 向 け の 講 習	受 け た こ と が な い	そ の 他
18-19歳	25.6%	71.8%	30.8%	25.6%	15.4%	0.0%	0.0%	2.6%	12.8%	0.0%		
20-29歳	19.7%	67.9%	17.9%	6.4%	11.9%	0.9%	0.9%	0.0%	21.6%	0.5%		
30-39歳	19.2%	63.1%	13.1%	5.4%	11.2%	0.8%	0.4%	0.8%	29.6%	0.8%		
40-49歳	11.7%	57.0%	9.4%	5.4%	7.2%	2.2%	2.7%	3.1%	33.6%	1.3%		
50-59歳	8.5%	40.6%	10.0%	2.6%	11.4%	2.2%	3.7%	7.0%	43.5%	1.1%		
60-69歳	3.5%	12.7%	4.8%	2.2%	10.0%	3.1%	2.2%	3.5%	69.0%	0.9%		
70歳以上	3.1%	11.5%	1.9%	1.1%	8.4%	9.6%	1.5%	3.1%	70.1%	0.8%		

歩行者・クルマ利用者の自転車安全利用に関する交通安全教育経験は、ほとんど自転車利用者と同様である。

図表 11-35 自転車安全利用に関する交通安全教育（歩行者・クルマ利用者、複数回答、回答数500）

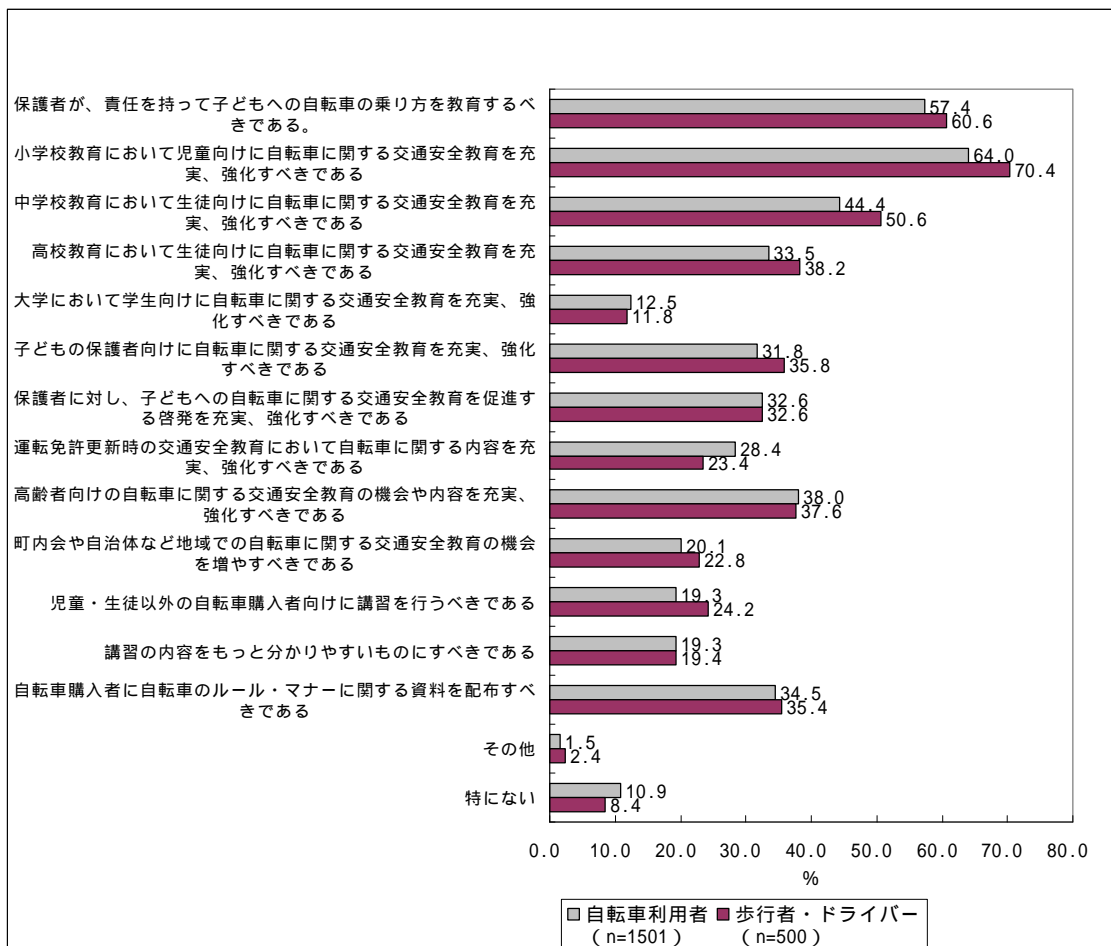


自転車安全利用に関する交通安全教育についての改善すべき点

問8.あなたは、自転車の安全利用に関する交通安全教育について、改善すべき点があると思いますか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んでご回答ください。（複数選択可）

自転車安全利用に関する交通安全教育についての改善すべき点は、自転車利用者、歩行者・クルマ利用者回答者のいずれも、小学校教育において児童向けに自転車に関する交通安全教育を充実、強化すべきである（自転車利用者 64.0 %、歩行者・クルマ利用者 70.4 %）が最も多く、次いで保護者が、責任を持って子どもへの自転車の乗り方を教育するべきである。（同 57.4 %、同 57.4 %）、中学校教育において生徒向けに自転車に関する交通安全教育を充実、強化すべきである（同 44.4 %、同 50.6 %）順となっており、これに高齢者向け、高校生向けへの教育、さらには自転車購入差に対する啓発活動が高い割合となっている。

図表 11-36 自転車安全利用に関する交通安全教育についての改善すべき点（複数回答）



交通安全に対する意識

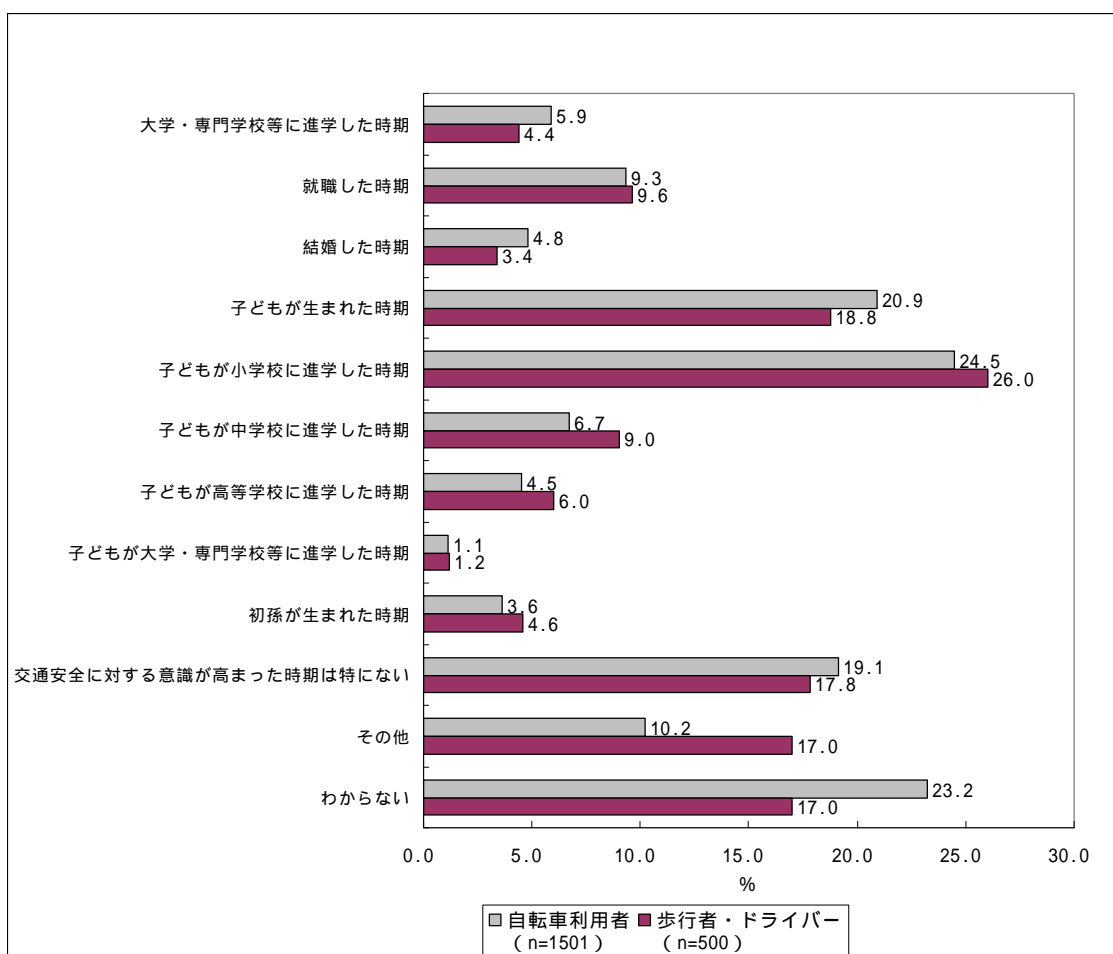
問9.あなたが、これまでの暮らしの中で、交通安全に対する意識が高まる契機となった時期がありましたか。

以下の中で、交通安全に対する意識が高まる契機となった時期として、次の中からあてはまるものをすべて選んでご回答ください。

(複数選択可)

交通安全に対する意識が高まった時期としては、自転車利用者、歩行者・クルマ利用者ともに、子どもが小学校に進学した時期(自転車利用者 24.5%、歩行者・クルマ利用者 26.0%)並びに、子どもが生まれた時期(同 20.9%、同 18.8%)が高い割合となっている。

図表 11-37 交通安全に対する意識(複数回答)



交通安全に対する意識が高まった時期を、年齢階層別にみると、30歳代以上においては特に子どもが生まれた時期、子どもが小学校に進学した時期の割合が総じて高い傾向にある。

図表 11-38 交通安全に対する意識（年齢階層別、複数回答、n=1501）

	に大 進学 学・専 した門 時学 期校 等	就 職し た時 期	結 婚し た時 期	時 子 ど も が 生 ま れ た	進 子 ど も が 時 小 学 校 に	進 子 ど も が 時 中 学 校 に	に子 進 ど も が 時 高 等 学 校	た子 門 時 学 ど も が に 大 進 学 ・ 専	期 初 孫 が 生 ま れ た 時	期 意 識 が 特 に 高 ま つ た 時 る	交 通 安 全 に 対 す る	そ の 他	わ か ら な い
18-19歳	25.6%	0.0%	2.6%	2.6%	5.1%	5.1%	0.0%	0.0%	2.6%	12.8%	17.9%	38.5%	
20-29歳	16.5%	11.0%	2.3%	8.7%	3.2%	1.8%	0.9%	0.5%	0.5%	23.4%	10.1%	32.1%	
30-39歳	5.0%	14.6%	8.1%	26.9%	15.0%	1.5%	0.4%	0.4%	0.0%	15.4%	10.0%	25.8%	
40-49歳	4.0%	8.5%	3.6%	21.1%	30.5%	6.3%	4.5%	0.9%	0.0%	15.2%	14.3%	23.8%	
50-59歳	2.6%	9.6%	5.9%	27.7%	36.2%	9.6%	8.1%	3.3%	2.6%	17.3%	8.9%	17.7%	
60-69歳	4.4%	10.0%	5.7%	22.7%	33.6%	10.5%	7.0%	1.3%	7.9%	23.1%	6.6%	17.0%	
70歳以上	1.1%	3.4%	3.1%	18.8%	29.5%	10.3%	6.1%	0.4%	10.3%	21.5%	10.3%	21.5%	